

人が紡ぐ感動と 笑顔あふれるまちづくり

かみやま
上山市長
よことちょうべえ
横戸長兵衛



はじめに

山形県上山市は、名峰・蔵王の懐にある、温泉町、城下町、宿場町という3つの顔をもつ豊かな自然に恵まれたまちである。

市内を南北に走る羽州街道は、岩代国の桑折宿（福島県伊達郡桑折町）で奥州街道から分岐し、出



文化5（1808）年に建築された「大黒屋」（夏に期間限定で“かき氷”や“冷やし野菜”などを提供）

羽国を經由して陸奥国に入り、油川宿（青森県青森市）で奥州街道に合流する脇往還で、上山市内へは現在、金山峠を経て榎下宿に入り、本庄地区を通り、中心市街地である上山宿のあった十日町通りに至る。そして隣接の山形市へ北進していく。

藩政時代、参勤交代の際には13藩が利用し、天保年間の「旅籠取覚帳」によると、出羽三山詣での行者や商人なども多く往来するなど、羽州街道は、人や文物をつなぎ、地域や文化の交流を支える重要な役割を担っていた。

羽州街道沿いの 2つの宿場上山宿と榎下宿

上山城下に位置した上山宿は、古くから温泉町として、羽州街道

の宿場の中でも屈指のにぎわいを誇ったといわれている。

東日本を中心に旅行組合として東講が結成され、この東講に加盟する旅宿や問屋、商店などを紹介する「東講商人鑑」は、現代のいわば旅行ガイドブックであるのだが、この中でも、上山宿は他地域より多くのページを割いて紹介されていることから、そのにぎわいぶりをうかがい知ることができる。

出羽国に入り最初の宿場となる榎下宿（上山市榎下地区）は、金山川沿いに開けた宿場で、本陣、脇本陣、問屋、旅籠などを備え、風格のある街並みはコの字形に形成され、上町、横町、下町、新町からなる。明治16年に新道が切られ、宿場の街並みはコの字型に変わったものの、地域に残る本陣跡

や茅葺の古民家群、白壁の蔵やアーチ型の石橋などは、往時の面影を今に伝えている。

羽州街道は、青森や秋田等の諸大名が往来し、中でも秋田の久保田藩主である佐竹候が街道の整備に注力したため羽州街道は別名「佐竹街道」とも呼ばれている。

榎下宿では、女性たちが徳利を



明治13年8月竣功の石橋「新橋」（建築費は郡補助金と住民の立替金で、完成後、利用者から橋銭を徴収し返済）

手に踊る「榎下とつくり踊り」が継承されているが、久保田藩が来訪した際、榎下宿では、このとつくり踊りでもてなしたと伝えられ、それが秋田おばこに合わせて踊られるのは久保田藩への感謝の気持ちの表れなのかもしれない。

歴史上、重要な街道として物流や文化、地域間の交流を支えてきたこの羽州街道は、平成7年に「歴史街道（国土交通省）」に選定。その後、平成8年に「歴史の道百選（文化庁）」に選ばれ、平成9年には「羽州街道 榎下宿 金山越」として国の史跡に指定されている。

街道がつなぐ地域活動の輪

とつくり踊り継承のほか、榎下宿では、地元の人たちが、榎下



観光客に人気の郷土料理「納豆あぶり餅」を振る舞う「榎下宿ばあちゃんズ倶楽部」のみなさん

いちちゃんズ倶楽部、ばあちゃんズ倶楽部を組織し、観光客らに郷土料理や古民家の囲炉裏で納豆あぶり餅などをふるまい、観光客との交流を通して、地域活性化を図っている。

また、本庄地区では、毎年10月に、「羽州街道飛脚駅伝」が実施され、飛脚に扮した地区民たちがタスキならぬ状箱を担ぎながら街道を走り抜け、秋の風物詩として人気を集めている。

さらに、十日町通りは、江戸時代のままの道幅で残っており、東講商人鑑と見比べながら、当時をしのぶまち歩きを楽しむことができるほか、城下町の風情を守るべく「城下町再生志士隊」などの市民活動も活発に行われ、街道が多くの人たちの心をつなぎ地域活動の輪を広げている。

魅力ある人と地域資源にさらに磨きをかけて

本市はこうした市民の動きをとらえるとともに、今ある地域資源にさらに磨きをかける施策の展開に努めている。

榎下宿では、市指定文化財である古民家の大黒屋に厨房を設置。

イベントにあわせ、地区民が地元食を提供できるように環境を整備した。また、上山城下にある十日町通りは、国から認定された上山市中心市街地活性化基本計画のもと、城の周辺を含め、城下の雰囲気を楽しみながら、まち中を周遊できるよう、道路の美装化やファサードの改修を進めるなど、回遊

一口メモ

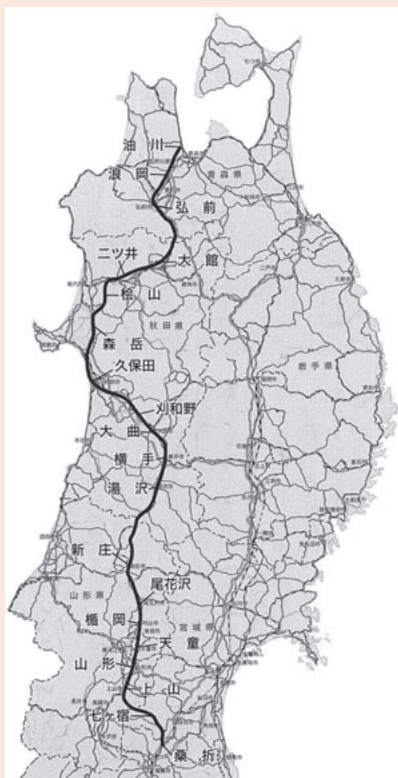
奥州街道と並ぶ東北の二大街道

羽州街道は、古くは、源頼朝の奥州攻めにあたり「鳥取越」（現在の小坂峠）の名で記録にあらわれる。

五街道に準ずる重要な脇往還のひとつとして整備された。桑折宿（福島県）を起点に、山中七ヶ宿（宮城県）を通り、奥羽山脈を越えて出羽国に入り、上山藩領（山形県）を通つ

て、山形、天童、新庄などの各藩内を経由。院内峠（雄勝峠）から秋田藩領を縦断し、さらに矢立峠から津軽藩（青森県）へ延びる長大な街道で、終着地の油川宿（青森県）までの間の宿場町は58宿を数える。

羽州街道の大部分は、現在の国道7号、13号、113号の基礎となつている。



企画協力…全国街道交流会議「街道交流首長会」